

南青葉だより 陽だまり

第11号 発行日：2022年9月1日 発行：南青葉台自治会 事務局

こども夏祭り（7月31日）

コロナの影響で中止としましたが、会館フェンスに子供たちの絵を飾りました。



第2回スマホ講座開催

7月17日、第2回スマホ講座を開催しました。参加して頂いた方々から、「スマホ講座はとても助かりました。家にいることが多いので、色んな講座をして頂いたら嬉しいです。」「少しずつやり方が理解できるようになりました。」「1～2回では覚えられないので、何度もして頂きたい」などの意見を頂きました。

※第2回スマホ講座は1回目の定員オーバーの方を対象としました



敬老の日に寄せて

南青葉台には、今年で65歳以上になられる方が、837人おられます。ご長寿、おめでとうございます！これからも、コロナ対策を怠りなく、ご健康で明るくお過ごしください。

ところで、敬老の日は、兵庫県の小さな村の村長さんが、昭和22年に提唱した「お年寄りを敬い、その経験と知恵を生かした農村作り」を目的に9月15日を「としよりの日」と定めたのが、始まりとされています。

自治会では、敬老の日に70歳以上の方に細やかなお祝いの品を、お届けいたします。しばし来し方に思いをはせ、行く末に楽しみを見出しつつ、ほっこりとお過ごしください。

100歳～	2人
95～99歳	12人
90～94歳	43人
85～89歳	79人
80～84歳	196人
75～79歳	220人
70～74歳	199人
65～69歳	86人

(令和4年4月現在)

自治会の活動状況と予定

- 7月21日 廃品回収日
- 7月31日 子ども夏祭り【中止】
(7月20～31日夏祭り絵画展実施)
- 8月14日 定例役員会
- 8月18日 廃品回収日
- 8月28日 4組織連絡会③
- 9月11日 定例役員会
- 9月15日 廃品回収日
- 9月19日 敬老の日お祝い品配布
- 9月21・30日 交通安全活動
- 10月9日 定例役員会
- 10月9日 スマホ講座③
- 10月20日 廃品回収日
- 10月30日 ハロウィン
(福祉委員会共催)

自治会公式



始動！

今年度より、回覧板の資料は、これまでの手回しに加え、公式LINEを使って皆さんのスマートフォンに送信することにしました。

友達追加は簡単です！

このQRコードをスマートフォンのカメラ機能でかざしてください。

かざすと、「南青葉台自治会」というグループが表示されますので、「友達追加」ボタンを押して操作を進めてくださいね。



編集後記

なかなか収束しない新型コロナの影響で、楽しみにしていた「子供夏祭り」も中止にせざるを得ませんでした。7月3日～20日締め切りで、盆踊り大会の様子、綿菓子、かき氷を食べているところ、スーパーボールすくい等、子供たちに絵を描いて貰いましたので、会館のフェンスに提灯と一緒に掲示しました。絵を書いて貰った28名の子供たちには、景品のクオカードをお渡ししています。一日も早くコロナが収束し、来年は「子供夏祭り」が開催できることを祈念します。

加賀田地区の民話 第11話

石仏小学校と加賀田中学校の間の道を15分ぐらい歩いた所に、前回ご紹介しました「弘法の井戸」、さらに5分ぐらい歩いた所に「石仏寺」があります。今回は、この「石仏寺」について、ご紹介します。

「石仏寺は、かつて真言宗、後に融通念仏宗（ゆうずうねんぶつしゅう）となった曼陀羅山（まんだらさん）阿弥陀寺（あみだでら）が正式名です。若き弘法大師が、讃岐（さぬき）国（今の香川県）矢谷寺（いやだにじ）（四国八八ヶ所霊場七一番札所）で修業したとき、光を発した3つの石で、弥陀（みだ）・天（あま）照（てらす）大神（おおみかみ）・春日（かすが）大明神（だいましょうじん）の三尊をお彫りになり、810年頃に創建したこのお寺に安置し、いつしか人々は親しみを込めて「石佛（いしほとけ）寺（じ）」と呼び、村の名前も石佛（いしほとけ）村（むら）とよばれるようになりました。平安中期の頃には、八角形の柱を使った建物があつたそうです。江戸時代にも、栄えていたそうですが、明治維新後の廃仏（はいぶつ）毀釈（きしゃく）（仏教を排斥し、寺などを壊すこと）の影響を受けたためか、1875年（明治8年）に、廃寺となってしまいました。しかし、つい最近、2005年（平成17年）3月に地元の人たちによって、石仏寺として再興されました。」

石仏寺管理運営委員会の説明より引用

フラワーアレンジメント教室を開催しました

今回、自治会員との交流を深め、皆様に少しでもお役に立てればと、フラワーアレンジメント教室を開催しました。実際はお役に立てたか、あまり自信はありませんが、お陰様で笑顔いっぱいの時間を持つことが出来ました。



熊本大空襲を経験して

8月15日の終戦記念日の日、幼い頃熊本大空襲（昭和20年7月1日）を体験された加藤弘美さんに、お話をお伺いしました。

昭和20年7月1日深夜、無数のB29飛行機編隊に焼夷弾（しょういだん）※を投下された熊本市内は、ほとんど焼失、当時加藤さん（3歳8か月）は、股関節脱臼のギプス治療のため、熊本医科大学病院に入院中でした。

付き添っておられたお母さんが、加藤さんを背負って、木造の病棟から大学本館の鉄筋コンクリートの建物に逃げ込まれましたが、避難してきた人たちであふれ、危険を感じられたお母さんは、隣の神社に避難されたそうです。

避難してきた人たちが増えてくると、先に逃げ込んだ人が圧死するそうです。結局、家族全員無事だったそうです。

あの日から今年で77年目になります。毎日のように放映されるロシアのウクライナへの侵攻で幼い子供たちや母親の姿を見るにつけ、私はよくぞ生き残れたものだと改めて実感されるそうです。

日本の各県庁所在地は、ほとんどアメリカの攻撃を受け、8月には広島、長崎に原子爆弾が投下され、20余万人と15万人が一瞬にして亡くなられ、日本は、世界で初めてのそして唯一無二の被爆国となりました。そして、77年前の今日、終戦となりました。

※ 爆弾の一種で、中に発火性の薬剤が入っていて、地面に落ちると燃えて周り一帯を焼き尽くす。木造の家が多い日本の街を焼き払うために開発された爆弾。

